

住んでい～わといわれる快適な道路の整備

計画概要

◆計画期間

平成24年度～平成28年度

◆計画の目標

本市は、濃尾平野のほぼ中央部に位置しており、地形は平坦で南北4.9km、東西3.9km、総面積10.49km²とコンパクトな市域となっている。また、大都市名古屋の北西10km圏の位置にあり、市内には名古屋市と犬山市を結ぶ名鉄犬山線が通り、名神・東名高速道路の小牧インターチェンジや一宮インターチェンジ、名古屋高速一宮線や小牧線の出入口からも至近な場所に立地しており、交通アクセスに優れた利便性の高いまちとなっている。しかしながら、岩倉駅東地区は住居や店舗が密集しており、道路幅員が狭く、緊急車両が進入できないなど、防災・防犯上の課題が多い。平成21年までに駅前広場と再開発ビルが整備されたが、岩倉市の最大の魅力資源である五条川と市の玄関口である岩倉駅を相互につなぐ都市計画道路桜通線の整備は未着手となっている。当該路線は店舗や家屋が密集しており、整備完了までは多額の事業費が必要となり、事業の長期化が懸念される。このため、過年度に整備した駅前広場と、(主)春日井一宮線の区間を第一期整備区間として整備を進めていく。

その他岩倉市内での都市計画道路についても現況の整備率が61.9%(H21)と低いため、費用対効果や広域的なネットワークを勘案し、地元の意見を聞きながら事業効果の高いものから優先的に整備を進めていく。また、これらの幹線道路の整備効果を十分に発揮するために、接続する生活道路等の整備を進めていく。

岩倉市内の道路や橋梁は、高度成長期に大量に整備してきたため、近い将来、老朽化による更新が集中することが予想されている。道路や橋梁を根幹的な社会資本として維持保全していくために路面性状調査などを実施し、計画的な維持管理を目指す。

岩倉駅西広場並びにシンボルロードと呼ばれている市道新柳通線の歩道については既設舗装の凹凸が顕著であり、点字ブロックが未整備であるために障害者等の円滑な移動を妨げている。そのため、歩道部の段差解消や点字ブロックの設置などのバリアフリー化を進めることにより安全・快適に利用できる歩行空間整備を進めていく。

計画概要

◆計画の成果目標(定量的指標)

総合目標

道路網の整備(自動車)に満足している市民の割合を約72%に改善

個別目標

総合目標の達成に向け、以下の個別目標の達成を目指す

指標①:道路の広さに満足している市民の割合を約69%に改善

指標②:都市計画道路の整備率を約69%に改善

指標③:まわりの道路の舗装状況に満足している市民の割合を約88%に改善

指標④:歩行空間のバリアフリー化に満足している市民の割合を約31%に改善

評価内容

◆交付対象事業の進捗状況

交付対象事業	事業費※	事業の実施状況	進捗率※
A（基幹事業名）	12百万円	計画の変更等に伴い、(他)南646号線(天保橋)の橋梁架替・現道拡幅については、別計画へ移行し、事業を進めているため、別計画内で事業進捗を図っている。 また、(1)新柳通線外の歩道バリアフリー化や(他)北77号線の現道拡幅においては、未実施となっている。	9.9%
B 関連社会資本整備事業	—		—
C 効果促進事業	—		—
合 計	12百万円		

※事業費は実績額

※進捗率(%)は各事業の計画に対する実施割合【事業費ベース】

※平成27年度から別計画へ移行しているため、中間評価時の事業費・事業進捗としている

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況（別紙1）

別紙1参照

Ⅱ 定量的指標の達成状況

総合目標(道路網の整備(自動車))に満足している市民の割合を約72%に改善)

最終目標値	72%	目標値と実績値に差が出た要因	都市計画道路を中心に広域的な道路ネットワークを形成する幹線道路の整備を計画的に進め、着実に進捗しているため、目標値を達成することができた。
最終実績値	72.5%		

個別目標 指標①(道路の広さに満足している市民の割合を約69%に改善)

最終目標値	69%	目標値と実績値に差が出た要因	(都)北島藤島線が平成28年度に完成供用し、さらに(都)一宮春日井線や(都)岩倉西春線など、市の外周部の幹線道路の整備が進捗したことにより、目標値を達成することができた。
最終実績値	69.7%		

個別目標 指標②(都市計画道路の整備率を約69%に改善)

最終目標値	69%	目標値と実績値に差が出た要因	(都)北島藤島線の事業が完了し、(都)岩倉西春線における天保橋が完成開通したことにより目標値を達成することができた。
最終実績値	74.6%		

個別目標 指標③(まわりの道路の舗装状況に満足している市民の割合を約88%に改善)

最終目標値	88%	目標値と実績値に差が出た要因	十分な予算措置が行えず、計画通りに舗装の維持・保全が行われていないことが原因と考えられる。
最終実績値	78.2%		

個別目標 指標④(歩行空間のバリアフリー化に満足している市民の割合を約31%に改善)

最終目標値	31%	目標値と実績値に差が出た要因	都市計画道路の整備を中心に歩道のバリアフリー化を実施した結果と考えられる。(子どもや高齢者にとって安全に徒歩や自転車で外出できるまちだと思う市民の割合に移行のため、H26実績値を最終実績値とする)
最終実績値	32.7%		

◆今後の方針

安全で快適な道路の整備については、別計画への移行や別計画を策定し進めていく。

◆事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	岩倉市建設部都市整備課
事後評価の実施時期	令和2年3月
公表の方法	ホームページ

参考図面



凡例	番号	事業 種別	要素となる事業名 (事業箇所)
—	41-A-4	地方道	(1)新柳通線外
—	41-A-5	地方道	(他)南646号線(天保橋)
—	41-A-6	地方道	(他)北77号線

【基幹事業】

- 事業名 (他) 南646号線(天保橋)
- 工事概要 橋梁架替・現道拡幅
- 事業箇所 岩倉市川井町
- 事業主体 岩倉市
- 事業効果 物流及び地域交流の活性化、渋滞緩和



※平成27年度に別計画へ移行